

多文化間アドバイジング・カウンセリングのさらなる深化 ～新組織の発展と多様な学生たちの活躍に向けて～

国際教育交流センターアドバイジング部門
アドバイジング・カウンセリング室

田中 京子・高木 ひとみ・酒井 崇・田所 真生子・和田 尚子

1. はじめに

組織改編から1年半を経て、トップグローバル大学として新たなプロジェクトにも取り組み、模索や工夫を重ねながら組織運営や部門業務を進めた一年間であった。部門の体制にも変化があった。4月には精神科医師酒井が部門教員として着任し、留学生の精神健康相談への対応を充実させることができるようになった。数年間共に職務にあたったカウンセラーの教員田所が8月で勤務を終え、10月にカウンセラー和田が教員として着任した。

新たな出発をして間もなく、3月に組織が再び改編され、国際部は「国際機構」となってその機能をより拡大させ、従来のアドバイジング部門も、これまでのキャリア支援部門と合併して、新たな「アドバイジング部門」として再出発した。組織改編前後の過渡期が、もうしばらく続くこととなった。関係者それぞれが自身の心身健康管理をしながら、互いに信頼関係を築きつつ、相談やカウンセリング体制の整備と内容の深化をめざして進んできた。

2. 教育活動

オリエンテーション：情報提供、信頼関係・交流、多文化理解の促進

留学生の渡日前から修了後にいたるまでの参加型、交流型、日本語・英語併用オリエンテーションを継続・充実させた。

【渡日前オリエンテーション】

- ・（日本語研修生、日本語・日本文化研修生所属学生対象）

例年と同様、学生交流課および入学予定者の進学先

部局担当者と協力し、ウェブ上で渡日前情報、入学予定者のためのガイドブックを得てもらうよう案内した。

【到着後オリエンテーション】

- ・全学新入留学生オリエンテーション

春と秋の新学期に、学生支援課および国際教育交流センター・国際言語センター関連部門と協力して、オリエンテーションを行なった。秋学期は、G30プログラム学生も対象として行なった。今年度は情報の整理と提供方法の見直しを行ない、新入留学生には情報をひとつのファイルにまとめて渡す方法を採用した。

- ・日本語研修生、日本語・日本文化研修生所属学生対象オリエンテーション

国際言語センター所属の研修生を対象に、到着後の区役所登録、学生登録、オリエンテーションをこれまでと同様に学生交流課と協力して4月と10月に数回に分けて行なった。

【帰国前オリエンテーション】（日本語・日本文化研修生対象）

学生交流課と協力し、プログラムを終えて9月に帰国する研修生に、帰国のための各機関での事務手続き等、帰国後の過ごし方などについて、オリエンテーションをおこなった。

- ・国際交流会館オリエンテーション

新学期にはそれぞれの会館で、チューターが主催して新入居者に対するオリエンテーションを行っており、アドバイジング部門教員はそこに参加し挨拶等を行なった。

【交流型オリエンテーション（ワークショップ）】

例年通り、世界の言語、文化を学ぶワークショップを地域のボランティア講師の協力のもと行なった（本年報「事業報告」中の「国際的人材育成のための多言語・多文化理解ワークショップの展開」を参照）。日本文化紹介のセッションは、基礎セミナーと連携開催し、ケ

ンブリッジ大学から本学にきた6名の短期交換留学生の参加も得て行なった。

(1) 国際教育交流プログラム

【学生パートナーシッププログラム】

国際交流を希望する学生の登録により、一般学生と留学生を1対1で紹介し自由に交流する「きっかけ」を提供するものとしている（今年度の登録者数は一般学生31名(内新規12名)、留学生7名(内新規5名))。登録者間でのマッチングは1件にとどまったが、登録者には学内外の交流イベント、海外留学に関する情報、日韓合同プログラム生、国際言語センター生へのチューター募集の情報をメールにて提供し2名がチューターとなった。また、10月の新規渡日国際言語センター生の区役所登録の手伝いの呼びかけに2名が協力し、言語プログラム・ランゲージシャワーの企画・運営に1名の学生が協力した。

【スモールワールド・コーヒーアワー】

2015年度は、スモールワールド・コーヒーアワー(以下、コーヒーアワー)は、運営に携わっている学生メンバーたちが、「アットホームな雰囲気を楽しめることに」を目標に掲げて活動を進めた。通常、前期3回、後期3回、計6回のコーヒーアワーを開催している。さらに、後で記述する「プレゼンテーションアワー 世界が広がる22秒」のイベントをコーヒーアワーの特別企画として位置づけ、プレゼンテーションアワー実行委員メンバーと共同で開催した。

2015年度スモールワールド・コーヒーアワー活動

開催月	テーマ	参加人数
4月	うそつき自己紹介	約80人
5月	利き茶・利きコーヒー	約50人
6月	名大祭フリーマーケット出店	
6月	プレゼンテーションアワー 世界が広がる22秒	約50人
7月	のんびり映画鑑賞会	約30人
10月	自己紹介ビンゴ	約60人
11月	ゲームをしよう	約50人
12月	プレゼンテーションアワー 世界が広がる22秒	約60人
1月	JAPAN HOUR	約40人
	計	約420人

コーヒーアワーのイベントは、学生スタッフが各回につき、毎週1～2回のミーティングを重ねて企画運営をしている。テーマを考える際には、毎回工夫が必要となる。どのようなアクティビティや活動を導入すると来場者が参加しやすく、有意義な交流を促すことができるのか、多文化への理解を深める視点も考慮しながら企画を行った。さらにルーティーンになりがちな各回のテーマや活動も、利き茶・利きコーヒー、お正月遊び、映画鑑賞など、新しい取組みも取り入れ、多くの参加者を募ることができた。

6月に開催された名大祭では、他国際交流グループ(ヘルプデスク)と協力して、フリーマーケットを開催した。フリーマーケットの売り上げをコーヒーアワーの運営費の一部に当てており、学生がさらに主体的に企画・運営しやすい環境を作っている。

コーヒーアワーのイベント中に見られる効果もさることながら、企画運営活動を通じた学生の人材育成という側面も持っており、学生たちの力を発揮する場や成長の場を提供している。

【世界が広がる22秒～プレゼンテーション・アワー～】

本年度、名古屋大学同窓会支援事業に採択され(申請者：プレゼンテーションアワー学生チーム代表・井上美里)、学生のプレゼンテーション能力を高め、アカデミックな交流の場を創出することを目的に、2015年6月、12月に、グローバルプレゼンテーション大会「世界が広がる22秒～プレゼンテーションアワー～」を開催した。コーヒーアワー特別企画と位置づけ、学生による実行委員会を作り、準備、運営を進めた。プレゼンテーションアワーにおける発表は、22枚のスライドを1枚につき22秒で発表するというシンプルな発表形式を用いている。

今年度も多様なテーマによる発表が行われた。例えば、名古屋グランパス、非言語コミュニケーション、世界遺産、韓国の生活文化、蜚、インドネシアの教育運動、脳、ケニアでの異文化体験等である。発表者が発表しやすくなるよう、実行委員のメンバーが各発表者のメンターとなり、連絡を取り合いながら、打ち合わせやリハーサルを実施した。リハーサルでは、発表がより理解しやすい内容になるようコメントしたり、発表者たちの緊張感が和らぐよう工夫を図った。

本プログラムでは、発表者が自分の研究、興味、活動等を発信し、聴衆者が発表を聞くことによって、視

2015年度多文化間ディスカッショングループ

2015年度前期	
日本語グループ	2015年5月22日～7月17日 毎週金曜日4限(全8回) 参加人数:8名 ファシリテーター:3名(教員2名, 学生1名) 主なテーマ:アニメ, 映画, テレビ, 学生生活, 大学の好きな場所, 日本の生活のココが好き・嫌い等
2015年度後期	
英語グループ	2015年10月29日～12月17日 毎週木曜日4限(全8回) 参加人数:8名 ファシリテーター3名(教員2名, 学生1名) 主なテーマ:祭り, 週末の過ごし方, 教育, 小さな頃の夢, もし大きな隕石が明日降ってくるとしたら, 何をする?等
英語グループ	2015年10月30日～12月18日 毎週金曜日4限(全8回) 参加人数:9名 ファシリテーター3-4名(教員2-3名, 学生1名) 主なテーマ:食文化, 教育, アルバイト, 結婚観, LGBT等

野や世界観を広げていくことを目的にしているが、それと同時に、企画・運営を進める実行委員の学生メンバーがプログラムのコーディネーション力を高める場としての教育的な機能を持っており、関わる多くの学生たちが能力を発揮し、自己成長を促す契機を提供している。詳しくは事業報告を参照されたい。

【多文化間ディスカッショングループ】

学生の適応援助、多文化理解の促進、そして多文化間における友人関係の構築を目的とした多文化間ディスカッショングループを前期に1グループ(日本語を主に使用)、後期に2グループ(英語を主に使用)開催した。学部1年生から、研究生、大学院生まで幅広い学生たちが参加し、国籍や文化背景、年齢や専門分野を超えて、互いに学び合う場面が多く見られた。学部生にとっては、他学生や先輩と繋がることができ、学生生活を送る上で、多様な情報を得られる機会となっていた。研究生や大学院生にとっては、日常の研究生活から離れ、ストレスを低減させ、リラックスできる場となっているようであった。さらに両グループとも、使用する言語(日本語、英語)を学びたい、練習したいと希望する学生たちも多く、日本語を主に使用するグループでは、留学生たちが日本語を学びながらディスカッションに取組み、さらに英語を主に使用するグループでは、英語を第2、3言語として学んできた学生たちが、持っている言語能力を活かしてコミュニケーションを取ろうと試みていた。言語面で分りにくいところは、他の言語を用いてサポートしあった。さらに各グループに、学生ファシリテーターを1名配置し、学生が企画・運営に携わることによって、ファ

シリテーションやコーディネーションの力量を形成するプログラムとして機能するよう実施した。

【MEIPLES:名古屋大学グローバル・リーダー育成プログラム(メイプルズ)】

名古屋大学グローバル・リーダー育成プログラム(MEIPLES)は、名古屋大学生がグローバルな世界で羽ばたくことのできる力を育成する教育プログラムであり、国際交流や国際的なイベントのマネジメント、国際的な場での活躍、国際的なキャリアなどに関心を

名古屋大学グローバルリーダー育成プログラム

Inspire the Nagoya University!

**私たちの名古屋大学ビジョンを
多国籍メンバーで語ろう!**

【日程】11月21日(土) 午前10時～18時(午前9時半受付開始)
【会場】名古屋大学 CALE フォーラム (国際棟・国際教育交流センター2階)

リラックスした自由な雰囲気の中で、
一般学生・留学生・教職員・卒業生を交えて、
名古屋大学の未来像について語り合おう!

使用言語は日本語と英語です。
進行はチームの力を引き出す専門家、平井達也先生。
平井先生は組織開発の新たな手法を取り入れて、
立命館アジア太平洋大学に新風を吹き込んできました。
参加者間で、多文化間コミュニケーションを楽しみましょう!

名古屋大学の持ち味や強みって
何だろう?
どんなキャンパスを
つくってみたいんだろう?
理想の大学をつくるために
私たちは何ができるだろう?

【講師・ファシリテーター】 平井達也氏 立命館アジア太平洋大学 教育開発・学務支援センター准教授
【対象】 一般学生・留学生・教職員・卒業生
【定員】 学生30名、教職員10名、卒業生10名
【参加費】 無料(食料は自己負担)
【申込み・問い合わせ先】 国際教育交流センターアドバイジング部門 info@nagoya-u.ac.jp
所在地:「グローバルリーダー育成プログラム」と記載し、名前・所属・学年・連絡先(メールアドレス)・使用言語の希望(日本語、英語、日・英語併用)を書いて、上記までお送りください。
【申込み期限】 11月18日(日)

主催:国際教育交流センター アドバイジング部門

持つ学生等を対象に、開催している。今年度は、国立大学改革強化推進補助金を受け、11月21日（土）に、立命館アジア太平洋大学から平井達也准教授を講師として「Inspire the Nagoya University! 私たちの名古屋大学ビジョンを多国籍メンバーで語ろう！」をテーマに組織開発の手法であるアプリシエティブ・インクアリーを用いて実施した。今回は、学生だけではなく、教職員、卒業生からも参加者を募り、30名の参加者で、日本語や英語を交えて、これからの理想の名古屋大学ビジョンを熱く語りあった。在校生にとっては、卒業生や教員と対話する機会となり、大学の取組みに対する理解が深まり、視野が広がったという声が聞かれた。さらに卒業生にとっては大学で経験してきたことを振り返る機会になり、教員にとっては在校生や卒業生たちが名古屋大学をどう捉えているのかについて聞く貴重な機会となった。立場の異なるメンバーで名古屋大学をテーマに語り合い、大切にしていきたい大学の核心（コア）、そして作っていききたい大学の理想像を検討できたことはとても有益だったと言える。また、参加者一人一人が、それぞれの持ち味や強みを活かして、今後グローバルリーダーとして主体的に活躍していくために必要な手掛かりを得られた研修となった。

【名古屋大学グローバルネットワーク（国際交流グループ）活動報告】

名古屋大学グローバルネットワークとは、国際教育交流センターが顧問や支援する国際交流グループの連携を促すことを目的に2009年から存在している学内ネットワークである。現在は、7グループ（スモールワールド・コーヒアワー、ヘルプデスク、ランゲージシャワー、留学のとびら、English College、異文化交流サークル ACE、名古屋大学留学生会 NUFSA）が共同で活動報告書を作成している。ゆるやかな連携のもと、各グループへの参加学生募集の広報活動やフリーマーケットなどを行っている。

今年度は、2つの学生グループ（ヘルプデスク、スモールワールド・コーヒアワー）が共同で名大祭にフリーマーケットを出店した。売上げは、各グループの活動資金になるが、一部ネパール地震を支援する団体に募金した。

年度末には、海外留学部門の村山特任助教を中心に、共同で年間活動の報告書を発行した。報告書は、アドバイジング部門のホームページを参照されたい。

(<http://acs.ieee.nagoya-u.ac.jp/program/introduction.html>)

名古屋大学グローバルネットワークの国際交流活動に、より多くの学生が参加できるようアドバイジング部門が中心になってリーフレットを発行しており、今年度は改訂を行った。オリエンテーション、ガイダンス、海外留学説明会等で配布している。



【学生組織との連携】

・異文化交流サークル ACE

異文化交流サークル ACE (Action group for Cross-cultural Exchange) は様々なプログラムで名古屋大学に訪れる留学生の生活のサポートや留学生と一般学生の交流を促進するためのイベントの企画・運営を行う学生団体である。アドバイジング部門教員が顧問を担当し、活動の助言や、企画するイベントが多くの留学生に周知されるよう情報提供に協力した。2015年度は、愛知教育大学・名古屋大学・三重大学の三大学合同で開催された「国際交流学生シンポジウム」において、ACEが協力し、取り組んでいる国際交流活動について発表する機会を得た。

・名古屋大学留学生会 (NUFSA)

NUFSA では、全学の留学生を対象とした、春と秋の留学生のためのバザーやウェルカムパーティーの他、様々なイベントを行っている。NUFSA は名古屋大学留学生後援会から毎年補助金を得ており、名古屋大学の留学生にとって有益な活動が提供できるよう取り組んでいる。2015年度は会の規約の見直しや新体制づくりに取り組み、2016年度から新体制で

新しい活動を実施していく予定である。アドバイジング部門教員が顧問を担当し、活動に対する助言や会計報告書作りの指導を行っている。

- ・愛知留学生会：愛知留学生会後援会の緊急援助金審査員および同援助金会計を2012年度から田中が担当し、事故や病気等で急な経済的困難に陥った愛知県内の留学生への支援について、申請受け付け、審査、支給、会計を行なっている。2015年度も数件の支給をした。
- ・中国留学生学友会：当会が主催または共催する行事等について、相談を受けたり大学との連携調整について協力したりした。また、当会が定期的に行なう球技練習のための学内施設利用について、引き続き責任者として申請承認している。
- ・名古屋大学イスラム文化会(ICANU)：当会が主催する国・地域文化紹介行事や、イスラム文化紹介の行事について、また毎週金曜日に行なう集団礼拝について、相談を受けたり大学との連携調整に協力したりした。また今年度は、名古屋大学生協との連携で行なったベジタリアン食提供に向けた事業の中でハラール食の充実の取組があり、ムスリム学生たちが協力した。他大学やメディアからハラール食や礼拝場所についての取材や問い合わせが複数回あり、適宜 ICANU が協力した。

(2) 学生個別教育：相談

相談室での相談活動を「個別教育」と位置づけ、名古屋大学の留学生に限らず、在学生や他大学へ進学した学生、地域構成員などの相談にも可能な限り対応した。

【相談時間】

相談対応は予約制としたが、予約のない時間でも在室中は適宜相談に対応した。電子メールでの連絡もあり、様々な形や内容の相談を件数として数値化することが必ずしも適切とは言えないが、9月以降の記録についてははできる限り件数として数え、内容について毎月1回部門内で相談全ケースについての検討会を開催した。検討会を通じて、情報の共有を図るとともに、様々な背景を持つ教員同士の専門知識の共有が可能と

なった。

【相談件数】

次頁の表の通りである。一度の相談における内容が複数にまたがっている場合も少なくないが、その場合は主たる相談内容を選択している。そのため、表の件数は相談の実回数に相当する。また電話やメールによる相談も件数に含めている。また、ソーシャルサービス室の相談件数については別途報告があるため、本表の件数はアドバイジング・カウンセリング室の相談件数である。

相談内容においては「心身不調・メンタル」「国際交流・学生活動」「日本語・学業・研究」の順に件数が多い。「心身不調・メンタル」が多い原因を分析すると、留学生側の要因として、異文化適応の困難や母国から離れた心的サポートの乏しさなどが考えられ、大学体制側の要因として、精神科医師の教員の部門内への配置により、これまで保健管理室にて対応されていた事例がアドバイジング部門の対応へと移ったことが考えられる。「国際交流・学生活動」が多いのは、当部門が多数の国際交流・学生活動を実施しており、それに伴う準備や相談のための面談が多数行われたためと考えられる。「日本語・学業・研究」では、日本語授業を受けるのに十分な日本語能力を有していない場合や入学時点より名大の授業についていくだけの基礎学力が不足しているケースがみられた。この点においては、留学生のみに責任を帰することなく、大学側の選抜方法や選抜基準のミスマッチ問題も考慮すべきであろう。

月別の相談件数においては、全体的に開校期間に多く、休暇期間は少ない傾向がみられる。これは、長期休暇中に母国に帰国したり旅行に出かけたりする留学生がいること、また学業や研究が相談の主たる内容である場合は、休暇中に相談の頻度が減少することを反映している。12月の相談件数が抜きんで多いのは、この時期に頻回の相談や診察を必要とする重篤なケースが増えたことに加え、10月に入学した留学生が不調をきたし、新規の相談者が増加したことを反映している。

【相談内容】

様々な相談の詳細その背景については、相談者のプライバシー保護の観点から、報告することができない例が多いが、今年度の特徴として以下を報告し、今後

	1 指導教員・研究室	2 日本語・学業・研究	3 在留	4 宿舍	5 奨学金・授業料	6 医療・健康	7 生活・異文化適応	8 就職・インターンシップ	9 進路・将来	10 家族	11 地域	12 人間関係	13 心身不調・メンタル	14 国際交流・学生活動	15 障害留学生修学支援	16 その他	合計
9月	0	7	4	2	1	0	2	0	2	1	0	0	5	8	0	1	33
10月	4	5	3	3	0	2	1	0	5	2	0	0	8	10	0	2	45
11月	0	12	0	1	0	0	4	0	2	1	1	0	19	9	0	0	49
12月	0	12	1	1	0	1	0	0	3	2	1	0	44	20	0	0	85
1月	0	10	0	1	1	1	0	1	1	0	0	1	20	11	0	0	47
2月	0	8	0	0	0	0	0	0	1	2	0	0	15	6	0	0	32
3月	1	1	0	0	0	0	3	0	3	3	3	1	11	6	0	0	32
合計	5	55	8	8	2	4	10	1	17	11	5	2	122	70	0	3	323

の活動に活かしていきたい。

■指導教員・研究室

研究室での人間関係について、疑問や悩みが寄せられた。所属部局の国際化推進教員や学内外関連機関と適宜協力しながら、疑問の払拭や問題の解決にあたった。指導教員の転勤に伴って進学先大学変更が必要になった学生がいた。受験や引っ越し等で苦勞したが、関連の情報を提供し、ボランティア組織の援助金なども利用して経済的負担が軽くなるよう支援した。

学生へは、疑問に感じるものがあつたら問題化しないうちに相談できる場所があることを、オリエンテーションや日々の活動の中でさらに周知していきたい。

■日本語・学業・研究

研究期間中に妊娠出産や育児を経験する学生たちから、研究の進め方についての相談があつた。様々な可能性を視野に入れて研究計画をたてたうえで指導教員とも相談することを勧めた。

研究指導の受け方について相談が複数あつた。教員との面会約束の取り方、論文指導の受け方等、出身国などで慣れて来た方法がそのまま通用しないこともあり、一緒に考えた。

■在留

家族が短期滞在の在留資格で来日した事例があつた。滞在中の保険、在留資格変更の申請、子どもの学

校申請などについて、円滑に進むよう支援したが、来日前の情報提供時に家族滞在査証を取得するよう促す必要がある。

博士前期課程修了後、後期課程に合格しなかった学生が、次の受験に備えて日本に滞在することができるかという質問が寄せられた。就職活動のための在留資格がこのような事例に利用されることがあるという情報があり（本学の例ではない）今後注視する必要がある。

■宿舍

連帯保証人の相談があつた。県営住宅の場合、名古屋大学留学生後援会の連帯保証制度が利用できず、個人の連帯保証が必要になる。今後の課題となっている。

■医療・健康

研究室の環境や人間関係に馴染めず心身の健康を損ねる学生たちがいた。留学生の場合、家族が近くにいないことがほとんどのため、大学の責任はより大きく、迅速に専門家に繋ぎ対応することが必要である。留学生を優先して診察や治療にあたる精神科医の必要性が高まり、今年度から部門に精神科医が着任したのは大きな前進であつた。

■生活・異文化適応

来日後の生活に適応できず非行を行なってしまった学生と、その周りの学生たちの支援を、関係組織や関係者とともに行なった。

■就職・インターンシップ

本学修了後就職して数年～20年たった修了生たちが、母校のために貢献したいと申し出てくれる時代になった。教育機関に就職した修了生は交流授業の可能性を、また民間企業に就職した修了生は就職活動についての本学留学生へのアドバイスを提案しており、今後に繋げる予定である。

■進路

本学に入学はしたが学生生活が期待と異なり、勉強がはかどらず、別の進路について検討する学生がいた。相談に対応しながら支援した。

■家族

家族が深刻な病気を抱えており、何度か実家と名古屋の間を往復した後、結局大学に戻ることができなかった学生がいた。関係者で状況を共有しながら、学生が最もよい進路がとれるよう支援した。

来日した子どもの学校や保育園への入学のために、情報提供や付き添いを行なった。また今後來日する予定の子どもの就学について、情報提供やアドバイスを行なった。

■地域

地域の組織や個人から、留学生と交流したい、留学生を招待したい、または留学生に日本文化を伝えたい、という希望は多く寄せられる。教育機関・公的機関からの依頼については地域連携・貢献の一環として部門で対応したが、民間機関や個人からの依頼については、慎重に検討して判断した。今後のために対応チェックリストを試作したが、大学として責任を持つて対応するためにはなお検討の余地がある。法務室にも相談したが、どのような背景の個人や組織であるかを判断するのは難しい点もあり、今後の継続課題としている。

交流場所について国際棟を利用することを希望している団体もあるが、継続的な利用については今後の授業や研修の動向を見ながら判断することになっている。

■心身不調・メンタル

留学生特有の問題とは言い難いが、不眠やそれに伴う心身不調の訴えが多くみられた。その多くは生活習慣の改善にて対処可能であったが、一部睡眠導入剤の投与を必要とするケースもあった。(2016年度後期にはG30対象にHealth and Sports Scienceの授業の一部を酒井が担当し、睡眠の精神衛生教育を実施する予定である。)

また留学生特有の問題として、家族などの不在のために病状悪化時のサポートが大学では十分にできず、母国の家族の元に帰ることとなったケースもみられた。

■国際交流学生グループ

名古屋大学留学生会(NUFSA)、名古屋大学イスラム文化会(ICANU)、中国留学生学友会、異文化交流サークル(ACE)等からの相談があった。会が主催する行事についての相談、運動施設利用にあたっての申請や連絡、コミュニケーションや日々の礼拝についてなどである。部門としては、学生たちが文化交流やメンタルヘルス上必要な活動ができるような多目的室の必要性を機会あるごとに大学関係者に伝えてきた。その他、名古屋大学で活躍している様々な国際交流活動グループからの相談に応じた。

■交流活動

パートナーシップ、ホームステイ、ワークショップ等の参加登録などで相談室を訪れる学生たちもいる。その機会に、交流や進路、外国語学習についての相談を受けることもある。様々な交流プログラムを紹介したり、言語を臆することなく積極的に使って実力をつけるよう助言したりしている。

■その他

税金・国民年金掛け金等

(3) 授業

昨年度に続いて、今年度も日本の伝統文化を学び英語を使って発信する基礎セミナーを開講した。一部の授業を公開し、本センターの日本文化を学ぶワークショップとの連携講座とした。

大学院国際言語文化研究科の「多文化コミュニケーション論」の授業が13年目となり、多文化参加者チー

ムで授業を進めた。今年度は、他の職務により多くの時間が使えるよう、前期（a）だけの開講とした。

本年度も前期に、G30教養科目「Exploration of Japan: From the Outside Looking Inside」（高木、中島）、後期の教養科目「留学生と日本—異文化を通しての日本理解—」を渡部特任准教授を代表とする教員チーム（高木、中島、浮葉）により開講した。

3. 大学国際化への貢献

（1）大学主催研修会等への貢献

・教職員研修

4月には、新任教員研修のポスターセッションでアドバイジング部門の紹介を行なった。7月には、今年度着任した部門の精神科医教員による、精神疾患の基礎知識と対応上の配慮についての教職員研修会を開催した。当研修会で「ひきこもり」についての関心が高いことがわかったため、2月には学生相談総合センターの古橋准教授による「ひきこもりの基礎知識と対応上の配慮」についての教職員研修会を行なった。

・研究会

7月には、多文化間メンタルヘルス検討会を開催し、九州大学において中国人留学生の支援に携わる江志遠氏を講師に招き、中国人留学生に焦点を当てて、留学生支援の方策について検討した。

（2）民間留学生寮入居希望者面接

留学生のために寮を提供している会社や団体が複数あり、入居希望者の面接を教育交流部門の教員や国際学生交流課の担当者とともに行なった。条件のよい寮へは、大学からの推薦可能定員を大きく上回る数の申請があるが、国籍の多様性や日本語運用能力の面で提供側の希望と申請者の条件が合致しないこともあり、今後の留学生寮の在り方について検討を継続している。

（3）国際交流会館チューター研修

インターナショナル東山・山手・妙見と留学生会館、および猪高町宿舎には合計約20名のチューター学生がおり、入居者の生活支援や会館運営の補助を行なっている。昨年度よりアドバイジング部門と教育交流部門とでチューターを対象とした研修を行なってきたが、

本年度は内容をさらに充実させるべく、年間で6回の研修および連絡会を実施した。さらに、ハンドブック*の作成も行った。研修時には、現状の課題や問題となっている事柄について議論する場も設けられた。その中で、「チューター」という名称がアカデミックな支援をするチューターと混同され、活動する上で混乱を招いているという事が報告された。議論の上、支援内容を明確化するためにも、「RA（レジデント・アシスタント）」と呼称を改める事とした。

3月には、新入学生を迎えるにあたり、受入れに特化した研修を実施した。その際には、業務内容の確認だけに留まらず、異文化適応の過程や異文化交流への理解を深めるためのセミナーや、受入時に行うオリエンテーション改善のため、有効なプレゼンテーション方法についてのセミナーも実施した。

*渡部留美・城所佑委・安部伸子・キューン ミッシェル・齋藤理恵・酒井崇・鈴木秀夫・高木ひとみ・田中京子・中島美奈子『国際交流会館 RA（レジデント・アシスタント）ハンドブック』名古屋大学国際教育交流センター、2016年2月

（4）国際交流会館チューター選考

国際交流会館のチューターを希望する大学院生たちを、国際学生交流課の担当者とともに面接し、選考した。志の高い多くの学生たちと面談し国際交流について意見交換した。以前はチューター経験者からの紹介を受けた学生たちが申請し、その中から選考してきたが、チューター（RA）業務についてより多くの学生に知ってもらい、適性を備えた学生たちをより広く掘り起こすため、昨年度より公募を始めた。今後海外留学説明会などの機会を利用しながらチューター（RA）の存在を広く伝え、教育的価値を高めていきたいと考えている。

（5）国際学生寮新設への協力・寮内教育の検討

平成30年（2018年）度に名古屋大学に新たな国際学生寮が建設される予定であるため、設計の段階から現場の意見が反映できるよう、関係部署に提案等を行なった。また、国内の複数の国際学生寮を視察したり関係セミナーに参加したりし、今後の寮内での共修体制について検討を始めた。

(6) 大学生協におけるベジタリアン食提供準備

学内構成員の食の多様性に対応するため、教育交流部門とともに留学生支援事業費を申請して、ベジタリアン食提供のための準備を始めた。大学生協との連携事業とし、学生たちも参加して学習会や試食会を行ない、来年度からはベジタリアン食の提供が始まることになった。(詳細については事業報告編を参照)

(7) 留学生のための引っ越しオリエンテーション映像化

これまでアドバイジング部門が中心となって、留学生のための引っ越しオリエンテーションを行なってきたが、より効率的、効果的に情報を伝えられるよう、必要事項を映像にまとめる事業を進めた。教育交流部門と連携し学生たちの協力も得て、映像が完成した。来年度から使用する予定である。(詳細については事業報告を参照)

4. 地域社会と留学生の交流への貢献

(1) 国際理解教育への留学生派遣

合計33件の地域組織等主催行事について、連携・協力した。依頼件数が増加し、組織間や学生との連絡に必要な時間や作業が増えている。昨年度ホームページ上に派遣依頼書および報告書を掲載して留学生派遣の仕組みを整備したため、より効率的に地域連携に繋げることができたが、依頼すべてに対応できない状況である。大学として責任を持って学生に紹介するためにも、今後は教育機関と公的機関に限定して協力していくことにした。

(2) ホームステイ

アドバイジング部門では、留学生と地域とを結ぶホームステイ事業に取り組んでいる。今年度は年間9回のプログラムを行なった。多くのホストファミリーを紹介いただいているヒッポファミリークラブが、来年度から管理料を徴収することになり、大学がどのように連携してホームステイを行なっていくのが適切か、検討して決定した。(詳細については本年報、事業報告編の「地球家族プログラム」を参照)

(3) 地域連絡会・留学生のためのバザー

本年度も地域連絡会を年に4回開催し、名古屋大学留学生会(NUFSA)、異文化交流サークルACE、

YWCA、ともだち会、地域のボランティアの方々と、留学生のためのバザーを計画し、4月と10月に開催した。留学生のためのバザーは、渡日直後やアパートで生活を始めた留学生にとって生活用品を安い価格で購入することのできる機会であり重宝されている。年々、バザーの提供品が減少傾向にあり、どのように提供品を募っていくか課題となっているが、関わる学生たちと共に発掘していく予定である。留学生のためのバザーは、品物を購入する学生たちだけがメリットを得る場ではなく、バザー運営のために関わる学生たちが、留学生の生活上のニーズを把握したり、地域のボランティアの方々と交流できる機会になっており、教育的な交流の場となっている。様々な検討課題があるが、今後どのように「バザー」を通した教育的な「場」の提供を持続的に継続していけるか、検討していく必要があると考えられる。

(4) 警察との連携

名古屋大学が位置する千種区の警察署には、従来様々な形で学生たちへの安全指導に協力してもらっており、特に新入生が、日本の安全神話を過度に信じていることがないよう、これまでの経験も参考にしながらオリエンテーションなどで指導している。学生集会などが他人によって思わぬ方向に利用されることなく行なえるよう、また地域の安全を守るためにも、学生グループとも協力している。

5. 研究・研修

(1) 著書・論文・報告

・田中京子「宗教的マイノリティとしての留学生と大学の環境」『ジェンダー&セクシュアリティ』第10号、国際基督教大学ジェンダー研究センター、2016年3月

(2) 学会発表

・2015年10月9-10日 日本精神病理学会口頭発表「言語活動における偶然性と統合失調症」(名古屋、酒井)

(3) 学会活動

・国立大学法人留学生指導研究協議会(COISAN)編集委員(田中2015年6月まで編集委員長、酒井2015

国際理解教育への留学生派遣

実施予定日	依頼内容	依頼元	内容	希望人数	参加人数	備考
2015年5月17日	周知依頼	揚輝荘	国際交流会	複数名	不明	直接応募
2015年6月12日	周知依頼	岐阜観光コンベンション協会	ぎふ長良川 鶴飼	複数名	不明	直接応募
2015年6月1日	周知依頼	千種高校	インターナショナルパーティー	複数名	不明	直接応募
2015年6月9日・23日・7月8日～2016年2月1回	周知依頼	旭丘高校		台湾出身学生1～2名	4名	
2015年6月10日・7月1日・7月8日	講師派遣依頼	旭丘高校	グローバルカフェ	5名×3回	15名	
2015年6月22日	講師派遣依頼	豊田南高校	グローバルカフェ	9名	9名	
2015年6月30日	周知依頼	椋山女学園大学	日本語学習	6～7名	不明	直接応募
2015年6～10月	講師派遣依頼	鶴城丘高校	国際理解授業	1～2名	0	応募者無し。他大学から決定
2015年7月8日	講師派遣依頼	扇台中学校	国際理解授業	スリランカ出身学生1名	1名	
2015年7月2日	講師派遣依頼	押沢台小学校	国際交流タイム	1名	0	応募者無し。他大学から決定
2015年7月31～8月4日・8月24日～8月28日	周知依頼	インタラック（愛知県教育委員会）	イングリッシュキャンプ	複数名	不明	直接応募
2015年7月～2016年3月	周知依頼	SKWord	中部地方の観光名称の紹介	10名	不明	直接応募
2015年8月10日～13日	講師派遣依頼	旭丘高校	高山グローバルサマーフェスタ	7名	1名	
2015年9月8日	周知依頼	一宮西高校	文化祭	1～2名	不明	直接応募
2015年9月～12月	周知依頼	Ajito 放送局	リポーター	4名	不明	直接応募
2015年9月20日	周知依頼	名古屋市市長室国際交流課	名古屋シドニーマラソン	2名	1名	
2015年10～11月	講師派遣依頼	旭丘高校	グローバルカフェ	5名×3回	15名	
2015年11月1日	周知依頼	名古屋を明るくする会	バスツアー	20名	20名	
2015年11月1日	周知依頼	揚輝荘	国際交流会	複数名	不明	直接応募
2015年11月20日	講師派遣依頼	西尾高校	グローバルカフェ	理系3名 文系2名	5名	
2015年11月～2016年3月	周知依頼	公益財団法人 三重県国際交流財団	国際理解・国際交流事業	複数名	不明	直接応募
2015年12月9日	講師派遣依頼	名東高校	イスラム教について	ムスリム学生1名	1名	
2015年12月7日	講師派遣依頼	半田農業高校	国際理解授業	タイ出身学生1名	1名	
2015年12月23日～27日	周知依頼	インタラック（愛知県教育委員会）	イングリッシュキャンプ in 愛知	複数名	不明	直接応募
2015年12月25日～27日	周知依頼	インタラック（三重県教育委員会）	イングリッシュキャンプ in 三重	複数名	不明	直接応募
2015年12月1日	周知依頼	千種高校インターアクトクラブ	インターナショナルパーティー招待	複数名	不明	直接応募
2015年12月15日・22日・1月5日・12日	周知依頼	椋山女学園大学	日本語教授法演習モデル受講者	3～4名	不明	直接応募
2015年12月26日	周知依頼	国際ソロプチミスト名古屋	家庭訪問	10名	8名	
2016年1月22日・29日・2月5日・12日	講師派遣依頼	旭丘高校	国際交流課外授業	5名×4回	17名	
2016年1月22日	講師派遣依頼	伊勝小学校	クラス訪問	5名	5名	
2016年1月23日	周知依頼	名古屋を明るくする会	新春留学生交流懇親会	10名	10名	
2016年2月6日・13日	講師派遣依頼	大府市立長草公民館	市民講座	1名	1名	
2016年3月12日	周知依頼	一宮観光案内所	一宮の観光	20名	不明	直接応募

年7月から委員)

- ・異文化間教育学会 編集委員 (田中)
- ・国立大学法人留学生指導研究協議会 (COISAN) 研究班 (高木)

(4) 研究活動

- ・2016年2月4日 国立大学法人留学生指導研究協議会 (COISAN) 第4回留学生交流・指導研究会ケースカンファレンス・コメンテーター (大阪大学, 酒井)

(5) 研究助成

- ・日本学術振興会科学研究費補助金 基盤研究 (C) 「日本留学の長期的成果～グローバル展開と次世代への波及」2014～2016年 (田中)
- ・日本学術振興会科学研究費補助金 若手研究 (B) 「大学院留学生のための多文化間調整能力を高めるための教育プログラムの開発」2014年～2016年 (高木)

(6) FD・SD 活動

- ・2015年10月3～4日 第22回多文化間精神医学会参加 (東京慈恵医科大学, 高木・酒井)
- ・2015年12月19～20日 立命館アジア太平洋大学グローバル教職員開発インスティテュートワークショップ「多様な背景を持つ学生の支援」参加 (高木)
- ・2016年1月29～30日 Convegno internazionale sul ritiro sociale in adolescenza (国際青年期社会的ひきこもり学会) 参加 (ミラノ, 酒井・和田)
- ・2016年2月13～14日 精神病理コロク2015/2016参加 (東京藝術大学, 酒井・和田)
- ・2016年3月11日 「留学生と日本人学生が共に学ぶ国際共修: ペタゴジーの確立に向けて」参加 (東北大学, 田中・高木)
- ・2016年3月19日 JAFSA 多文化間メンタルヘルス

研究会参加 (明治学院大学, 田中・高木)

- ・東山症例検討会 (保健管理室, 毎月開催) 出席 (高木・田所・酒井・和田)

6. 社会連携

(1) 研修・講座講師

- ・2015年5月28日 西生涯学習センター人権講座「外国人と日本人意識からの解放～知ることによって自由になる～」(講師: 田中, 学外講師1名, 大学院生1名)
- ・2015年8月21～23日 BRIDGE「国際教育の理論と実践を学ぶワークショップ」講師 (高木)
- ・2015年8月30日 「留学生とハラスメント問題」(キャンパス・セクシュアル・ハラスメント全国ネットワーク第21回全国集会 in 名古屋, シンポジスト: 田中)

(2) 国際交流関係財団等の委員

- ・コジマ財団 評議員 (田中)
- ・愛知留学生会後援会 常任理事, 緊急援助金担当 (田中)
- ・愛知県国際交流協会 評議員 (田中)
- ・大幸財団 選考委員 (田中)

7. おわりに

2015年度は新任教員の着任, 国際機構への組織改編など体制面における変化が大きい一年であった。そのような変化の中, これまでの相談・教育活動を継承しつつ, 各々の専門性が活かされるように活動内容を深化させており, 部門の足場が固まってきていると言える。固まった足場を基軸に, 今後は学内全体に視野を広げて, 幅広く連携していきながら, 大学のさらなる国際化を目指し, 多様な背景を持つ人々がその能力を最大限に発揮できるような共修・協働体制の整備に貢献していきたい。